

なぎそ 議会だより

平成28年7月全員協議会

梨子沢災害復旧工事現場の視察、議員研修会の報告と感想	15P
全員協議会：地方公会計「経営戦略の策定・公営企業法適用について」	16P
総務文教常任委員会報告：坂下病院はどうなるのか？ — その2 —	17P



梨子沢災害復旧工事現場の視察

7月10日(日)、梨子沢災害復旧工事現場を国土交通省、木曾建設事務所、南木曾町の案内により、住民20名、議員3名の参加で、上流から下流へと視察しました。

最初の大梨子沢上流部にある県の砂防堰堤工事では、今回の災害で損傷した既設の大きな堰堤の復旧のために、下流部に新たな堰堤を建設していました。

次にその300m下流に建設中の梨子沢第3砂防堰堤と細野洞橋上流付近の梨子沢東町堰堤を見ました。

細野洞橋から南木曾小学校までの河床・護岸は復旧整備され、緩やかな曲線の流路では水の流れもスムーズです。



今回の視察で、国・県・町が連携しながら災害復旧に取り組んでいる状況がわかりました。今後は、堰堤・流路工などのハード面の整備に合わせ、危機意識、避難対策などのソフト面の強化が不可欠かと思いました。

前日には2年目となる土石流災害献花式が行われ、改めて土石流災害の恐ろしさと、この教訓を次の世代につなげていく必要性を感じました。(記：近藤)

議員研修会の報告と感想

伊藤寿子議員

7月21日午後、松本市キッセイ文化ホールにおいて長野県町村議会議員研修会が開催され、他の公務のあった議長を除き議員全員が参加してきました。前半は、明治大学の牛山久仁彦教授による「議会の活性化と政策立案」をテーマにした講演、後半は、軽井沢町、南箕輪村、麻績村、飯綱町の各議長によるパネルディスカッション「県内町村議会での活性化への取り組み」でした。

若い人、女性の参加できる議会に

牛山教授は「地方分権」や「地方議会の活性化」について講演しました。

その中で、平成の大合併により自立した町村議会のほとんどが、議員定数を削減し報酬をカットしているが、それが町村にとって本当に良かったのかと問いかけ、そのことが議会の力を弱め、議員のなり手不足、若い子育て世代が議員になれないことに繋がっているのではないかという話がありました。

これは十数年感じていたことであり共感もし、これからの開かれた議会を考えると、若い人の参加、特に女性の参加は必須の課題だと改めて感じました。

求められている議会の活性化

後半のパネルディスカッションで紹介された議会活性化の取り組みは、軽井沢町では定員16人中5人の女性議員が誕生したこと。南箕輪村は自立当時に議員を16人から10人に削減したが、学校、企業誘致などで人口は増え15,000人の声を10人で聞けるかが問題となっていることなどでした。

人口約2,800人の麻績村からは、休日議会、住民懇談会、子ども議会などの取り組みが、また飯綱町からは「学ぶ議会」と「議員の自由討議」が活性化の推進力という報告がありました。

各地の様子を聞き、町に見合った「議会活性化」の必要を実感させられた良い機会となりました。

全員協議会 議会と町の意見交換 (7月11日)

・地方公会計「経営戦略の策定・公営企業法適用について」

説明

簡易水道会計、妻籠特定環境保全公共下水道事業会計、蘭農業集落排水事業会計の3会計について、経営戦略を策定するとともに、資産台帳を整備し、法適用の公営企業会計に移行するものです。

法適用の公営企業会計に移行した場合、会計方式が官公庁会計から公営企業会計（発生主義・複式簿記）に変わり、固定資産台帳作成等が必要となります。町の固定資産台帳の作成費用は、水道会計2千5百万円、下水道、農集排それぞれ2千万円、合計6千5百万円の債務負担行為の補正が6月議会で承認されています。この経費は公営企業債の対象となり、元利償還金の財政措置として、下水道事業で49%、簡易水道事業で50%が普通交付税で措置されます。

「経営戦略策定」に要する経費は、対象経費の50%を一般会計か

ら繰り出します。（上限1千万円）この繰出額の50%は特別交付税で措置されます。

制度改定は国の進める「骨太の方針2014」における地方財政制度改革や「公共施設等総合管理計画策定にあたっての指針」及び「公営企業会計の適用推進」などの決定に沿って行います。

北原議員

Q 調査経費の削減はできないか。一般会計からの繰出金のルール分はどうなるか。また、老朽化、人口減での会計状態をどうするか。

A 経営戦略、法適用の資産台帳の整備を、3会計まとめて行い、経費の節減に努めます。繰出金のルールは基本的には変わりません。人口減と施設の老朽化への対処は課題で、10年間の経営戦略の策定、資産台帳の整備により具体的に検討します。経営戦略は交

付税の措置がある今年中に策定しますが、随時見直しを図ります。

意見 経営戦略計画の報告と、値上げしない上下水道会計を願う。

坂本議員

Q 固定資産台帳が整備され、施設の早期更新が必要な場合の国の支援について、10年計画での見直しはあるか。

A 総務省の支援は具体的に示されていません。国交省や農林水産省は長寿命化計画の策定があります。町の整備計画は実施計画が数年ある程度で、財産データの管理も不十分のため、どこかの修理がどの程度必要かはわかりません。

国は財産管理をふまえた財政予測を自治体に徹底させ、それに基づき国の採択や、優先順位などの判断に使うとしています。固定資産台帳が未整備のところは補助順位が低くなると思います。

町としては台帳整備を財政的な支援のある時に進め、今後の整備計画を策定する上でも有効に使う考えです。

近藤議員

Q これまでは減価償却を考慮せず現金で直してきたが、今後、償却分の積み立てが必要でないか。

A 現在の経営では、ルール分以外に一般会計から維持費分を1千万円程度繰り入れており、減価償却分の積み立ては難しいと考えます。

Q 一般会計のルール分繰り入れが難しいと、料金収入に跳ね返り、料金値上げにつながるのでは。

A 収支ギャップの改善が一つの課題になります。例えば下水道管理委託方法の見直し、簡水施設統合の検討などです。

Q 経営戦略は、今年度中に対策まで含めた内容で策定するのか。

A 期間が短いので、マニュアルにより方向性と考え方を最低でも策定し、さらに経営戦略を見直す考えです。

山崎議員

Q 固定資産台帳整備に3会計で6千5百万円の債務負担行為を設定している。町は水道管配置など把握していないのか。

A 建物の台帳は整備されています。管路は当初の設計書に基づき整備していますが、修繕による変更などを積み上げた資料はありません。

Q 固定資産台帳作成に多額がかかるのは。

A 図面や設計書は残っていますが、資産としてどこにどのようなものがあるかといった台帳がありません。今回それを整備して、長期的な経営計画の構築と、料金収入の推測等を行うものです。

総務文教常任委員会 報告 **坂下病院はどうなるのか？—その2—**

7月13日から21日にかけて「中津川市民病院・坂下病院の現状と今後について」と題して、中津川市の4箇所で病院事業地域説明会が開かれました。南木曾町を含む周辺地域から参加者がありました。委員会では説明会での状況などを把握しながら、課題の整理と今後の対応について検討しています。

報告1. 坂下病院について、中津川市が開催した各地の「病院事業地域説明会」のようす

【説明会参加者】：H28.7.13：坂下公民館、600名以上、H28.7.16：山口公民館、150～200名。H28.7.19：まごめ自然休養センター、80名程。H28.7.21：川上かたらいの里、200名程度。

【主な説明内容】：会場配布の説明資料「中津川市民病院・坂下病院の現状と今後について」を参考。

医療情勢について ①社会保障費の急増 ②国の対策（診療報酬の引き下げ、病床の削減、機能分化）

中津川市公立2病院の現状と課題 ①医師数の現状 ②医師不足の原因 ③医師確保の対策 ④経営状況

課題のまとめ ①坂下病院の深刻な医師不足 ②経営状況の悪化と資金不足

中津川市公立病院機能検討委員会の方針 課題の改善シミュレーションの視点を、a「地域医療構想」（病床の削減）と b、「新公立病院改革プラン」（医療機能の集約化）とし、4つのシナリオ案を検討した。

各シナリオの坂下病院についての内容は、1. 廃止 2. 診療所化 3. 急性期病床は廃止 4. 現状維持（病床は削減）である（前号でも報告）。

6月30日の第5回検討委員会で決定した方針はシナリオ2で、平成32年を目指し坂下病院の診療所化を進める。

今後のスケジュールは、a. H28.7.25議会特別委員会へ方針を報告、b. 市長へ地域説明会で出た意見を報告、c. 市長は議会特別委員会の提言と検討委員会の方針、および地域説明会の意見を基に判断、となる。

【説明会での主な質問・意見の概要】：坂下、山口、まごめの会場から。

住民への説明 住民にこれまで説明がなかった。検討委員会は各地の代表も入って構成されるべき。坂下や木曾の人の気持ちを聞いて。木曾地域住民に説明しないのか。落合での説明会を考えてもらいたい。ここに来れない人たちの思いをくみ取って欲しい。ケアマネにも説明してもらいたい。

坂下病院の必要性 国保坂下病院は、国保が出来たときに医療のない山間地域に出来た病院で、利益の出ない病院だった。当初20床から始まり70年間、近年は地域包括ケアの拠点にもなっている。民生委員だが担当している全員、坂下病院が必要である。内科、その他の科も全部必要だ。縮小さ

れることで助かる人も助からなくなる。

将来を考えると若者が住むことに不安を感じる。南木曾町は子どもの予防接種などで坂下病院に大変お世話になっている。

ツバキ街道が出来て坂下には10分で行ける。市民病院は30分だ。市民病院は車でないと行きにくい。電車で行けるので落合にも坂下へ行く人は多い。人口5000人弱の坂下町に経済効果がある。

救急など 救急医療はどうなるのか。大桑から救急で市民病院までは信号無視しても最短で30分はかかる。訪問看護はどうなるのか。開業医不足では、在宅は無理ではないか。

医師の確保 創立当時南木曾には5名の開業医がいたが、現在は歯科医を入れ2名である。坂下病院での医師確保の方法はどうなっているか。中津川市民病院の分院にして医師を市民病院から派遣できないか。医師不足というが、リニアに投資するより病院を優先して欲しい。親戚、知人、友人に医師がいれば是非とも紹介頂きたい。

病院の経営 経営の悪化は国の制度が要因としている。公立の7割が赤字、自治体から制度改革をあげるべきだ。病院は利益優先でなく、赤字ではいけないのか。坂下病院には木曾南部から坂下周辺地域の2万人ほど、この人口規模で黒字化の病院があるのではないか。一般会計から坂下病院に4億円繰り入れたというが、繰り入れはどの程度までが適正か。シナリオ2になったときの経営見通しの数字は疑問だ。

中津川市内には個人病院が21もあり、市民病院だけを残して市内だけを充実させるのはよくない。坂下病院は弥栄地区と木曾地区で7割使用していることを承知で改革するのか。H20から検討したというが、これまでの経営努力はどうだったのか。

シナリオ4にして欲しい。そのために利用者は何をすればいいのか。2つあっても問題なし。指定管理とか民営化とかは出来ないか。市民病院には紹介状がいるのか。

報告2. 地域医療の状況を把握する取り組み

◆7月18日：坂下病院高山哲夫名誉院長と懇談。また、総務文教委員会では、議会から町に対して住民説明会を開くことを提案する方向などを確認。

◆町と議会が共催する住民説明会を開催
8月6日(土) 午後6：30から南木曾会館